

関西湾岸ネットワーク

甲南大学では「海でつながる」をキーワードに、神戸市、堺市、和歌山市、徳島市と「関西湾岸ネットワーク」を2016年に構築。2019年からSDGsチャレンジは岡山市を加えて、瀬戸内へと連携を広げ、活動しています。



オンライン実施 with コロナ時代の新たな連携スタイルで地域の課題と向き合う

SDGs × 甲南大学

甲南大生と各地の地元高校生がチームを組み、持続可能な未来に向けて地域の身近な課題解決に取り組む「関西湾岸SDGs チャレンジ(主催/甲南大学・朝日新聞社メディアビジネス局)」。3年目を迎える2020年は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインを活用したグループワークなど、過去2回とは異なるアプローチで実践的な学びを進化させました。

5つのチームが 取り組んだ プロジェクトテーマ

神戸市チーム

Bamboo Project 六甲
～無限の竹を活かす甲南学園モデル～
甲南学園の近隣に位置する六甲山の放置竹林に着目。竹を原材料に使用した商品開発～ブランド化によって地域循環共生圏の実現をめざしました。

堺市チーム

『子ども食堂』
認知度向上に向けた施策
市内に多数ある子ども食堂が、多世代交流拠点として地域に根つき、継続的に運営されていくためにはどのようなサポートが有効なのかを考察しました。

和歌山市チーム

「貴志川線」を「医療」でつなぐ
～「駅」に「健康」という付加価値を～
貴志川線の各駅周辺に健康・医療施設を設けることで、高齢化が進む地域のコミュニティ拠点とし、地域の活性化と同線の利用促進をめざしました。

徳島市チーム

水都 とくしまの魅力発信
徳島市が有する豊富な「水資源の魅力」に着目。歴史や文化を守りながら、親しみやすい観光を通じて、水都の魅力を旅行者に発信してもらうことを考えました。

岡山市チーム

幸せへの Kick Off
～地域に根差した「繋がり」を～
プロサッカーチーム「ファジアーノ岡山」と連携し、人(地域)とのつながりがない孤立した人々へ必要な支援(情報)を届ける施策を考えました。



持続可能な開発目標 SDGsとは
「Sustainable Development Goals」の略称。2015年の国連サミットで採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会実現のため、2016年から2030年までを期限とする国際目標です。「質の高い教育をみんなに」「住み続けられるまちづくりを」など17のゴールと169のターゲットで構成されています。

柔軟なアイデアで地域が抱える課題の解決に挑む5つのチーム

甲南高校の生徒と甲南大生の神戸市チームが取り組んだのは、「地域循環共生圏の取り組み」。地元企業と連携して六甲山の放置竹林を活用しバイオマス発電の燃料にするなど、学校(甲南学園)を核とした循環型社会のモデルを提案しました。
堺市チームは堺市立高校の生徒とともに、「子ども食堂」貧困」というイメージを払拭することによって利用しやすい子ども食堂のあり方を探りました。みんなが集う学校のような場にと願い「地域スクールラボ(スクラボ)」と愛称を付け、SNSを活用して認知の浸透を図る案を考えました。
ローカル線の利用促進に取り組んだのは、市立和歌山高校の生徒をメンバーとする和歌山市チーム。薬局やリハビリ施設を設置するという高齢化に着目した提案を行いました。
徳島市立高校の生徒と取り組んだ徳島市チームは、通称「ひょうたん島」で知られる三角州を中心に、徳島市の水都としての側面を観光資源としてPRするために調査し、高校生からは「地元の魅力を再発見できた」との声も聞かれました。
引きこもりや貧困などの社会的弱者が、地域コミュニティとつながるために、地元サッカーチームと連携したイベントの実施を提案したのは、岡山学芸館高校の生徒と組む岡山市チーム。社会福祉協議会からも協力を得て就労相談などにも応じられるイベントを提案しました。

Teacher's Voice

3年目を迎えるSDGs
オンラインを活用し
新しい学びのカタチへ

学長室長 文学部 歴史文化学科 教授 佐藤 泰弘

今振り返ると「コロナ禍のもとどこまでできるのか」に挑戦した年でした。グループワークは遠隔会議システムを活用し、各地に分散するメンバー間の距離を飛び越えました。新しいツールを手に入れたことは、大きな収穫でした。実施が危ぶまれたフィールドワークも、各調査地域の感染状況に応じて実施方法を判断し、調査方法にも工夫を凝らして、できる限りのことをやりきりました。制約の中で各チームはよくがんばってくれました。
それぞれ魅力的な提案でしたが、みんなで貴志川線に乗ったという体験の共有が和歌山市チームに最優秀賞をもたらしたのだと思います。「現場に立つ」ことが個人にとってもチームにとっても大切なことを実感しました。次にめざすべきは提案の実現だと思っています。



SDGsチャレンジアカデミー

甲南大生と各地の高校生をオンラインでつなぎ、新しい形式での成果報告会を実施。白熱したプレゼンテーションの結果、和歌山市チームが最優秀賞に輝きました。

フィールドワーク

感染防止のために各チーム工夫を凝らし、可能な限り現地に足を運びいろいろな人の声に耳を傾け調査を実施。多くの気づきを得るフィールドワークになりました。

グループワーク

課題の発見や解決策を探る大学生・高校生合同のグループワークは主に、オンラインの遠隔会議システムを用いて、議論を重ねアイデアを深めました。